

＜国際バイオビジネス学科＞（認定課程 高一種免(情報)）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	語学や人文・社会科学の科目を中心に、教員としての基礎知識・教養を幅広く養う。教職についての理解を深め、教員としての適性を確認する。情報リテラシーでは特に情報倫理を意識した教育を実施し、情報教員としての適正を認識させる。
	後期	語学教育を継続し、基礎知識や教養を引き続き高める。情報リテラシー教育を引き続き実施し、情報教員としての基礎技術を修得させる。バイオビジネス経営情報論の授業では、ビジネス経営における情報ネットワークの重要性を理解し、情報教員としての知見を広める。
2年次	前期	語学教育を継続して実施するほか、専門科目において情報ネットワーク論や統計学、さらにはプログラミング言語を学ぶ。また、実地研修により教養だけでなく人間力を育む。実地研修では、集中講義における研修のほか、事前学習・事後学習を通じて農業経営への理解を深化させ、教員としての自覚を形成する。
	後期	引き続き語学教育を実施するほか、会計学や財務会計論にて専門技術を学び、教育やビジネス現場における多彩な情報活用の事例学習を通じ、経営者、管理者の視点から情報活用能力を高める。
3年次	前期	語学教育を英語教育に特化し、英会話、ビジネス英会話の授業により英語力を高め国際人としての素養を伸ばす。データベース論、情報システム論では、データベースの基礎とビッグデータの活用および情報システムの学習を通じ、データ利活用の基礎を学び情報教員としての応用力を育成する。
	後期	引き続き英語科目を継続して履修し国際人としての素養を高める。オペレーションズリサーチやマルチメディア論の授業では、情報分析のための手法を実例を通じて学ぶ。経営情報演習など実際の情報活用の授業を通じて、情報教員としての応用力を育成する。
4年次	前期	卒業研究を通じ、論理的思考をトレーニングし、研究発表を通じて他者に自己の考えを伝達する技術を修得する。教育実習を通じて、教員としての教授技術を修得し、教員としての自覚を促す。
	後期	引き続き卒業研究を通じて論理的思考を育むとともに、これまでの学習を体系的に振り返り、自己の特徴や長所を活かした教員像を考えさせる。